

胃内視鏡検査の説明書

〈胃内視鏡検査とは〉

内視鏡検査は、一般的に広く行われており、食道～胃～十二指腸までの粘膜の状態を直接観察し、潰瘍、ポリープ、炎症、癌などの病気を発見し、適切な治療方針を立てることを目的としています。

検査中に異常が疑われた場合は、より詳しく調べるために、粘膜組織の一部を採取(生検)し、細胞の検査を行うことがあります。また、病変部位に色素を散布し、病変の性状を明瞭にし、診断の助けとすることがあります。

〈経鼻内視鏡について〉

当クリニックでは経鼻内視鏡(鼻から入れる細いカメラ)を採用しております。直径5mm程度の太さの内視鏡で、口からの内視鏡に比べて嘔吐反射が少なく、苦痛を最小限に抑えることができます。検査中での会話も可能です。

ただし、鼻腔が狭いなどの理由でどうしても挿入が困難な場合は口からの検査に変更させていただきます。

〈検査に伴う危険性・偶発症〉

基本的には安全な検査ですが、稀に検査に伴う偶発症として、以下のものがあげられます。

- ①薬剤によるアレルギー反応(ショック・呼吸抑制)
- ②内視鏡挿入時に起こる粘膜損傷、消化管出血、穿孔
- ③誤嚥性肺炎
- ④咽頭痛、経鼻内視鏡の場合は鼻の痛みや鼻出血

偶発症割合は観察のみでは0.171%、生検検査を行った場合は0.667%

(日本消化器内視鏡学会誌 2017年 59巻 7号p1532-1536)と報告されています。

細心の注意を払い検査を行いますが、万一生じた場合には緊急対応を行い、最善の対処を致します。

そのため、入院治療、緊急手術などが必要になる場合もありますので迅速に適切な対応をさせていただきます。

〈鎮静剤使用について〉

- ・胃内視鏡検査に伴う苦痛を軽減するため、希望する方には鎮静剤を使用してウトウトした状態で検査を行います。
- ・検査後起きてから少しふらついたり、眠気を催すことがありますので車、バイク、自転車などの乗り物を運転してのご来院は控えてください。
- ・お車などで来院の際は鎮静剤を使用できません。あらかじめご了承ください。
- ・鎮静剤を使用することで検査後当日は判断力が低下したり、ふらつき、転倒の危険が高まりますのでご了承ください。